

「真空の効用」

JJ1SXA／池

中曽根元首相は、JI1KIT小渕総理を評して、真空総理とからかったが、これは、多分、一口で言えば、中身が無いという意味かと思いますが、宮沢蔵相は、逆に「老子」の言葉を引用して、褒め称えたそうです。

「老子」の言葉に「真空の効用」というのがあり、それは、「大成は欠けたるが如く其の用弊れず、大盈は沖しきが如く其の用窮まらず」という言葉です。

「タイセイハカケタルガゴトクソノヨウヤブレズ、ダイエイハムナシキガゴトクソノヨウキワマラズ」と読みます。

「本当に完成しているものは、どこか欠けているように見えるが、いくら使ってもくたびれがこない、本当に充実しているものは、一見、無内容に見えるが、いくら使っても無限の効用をもつ」というのが、その意味です。

小渕総理の実体は、どちらが正しいのか、よくわかりませんが、見方は色々あり、又、同じ言葉にも、色々な意味があるということが分かります。

物事は、ある一面からのみならず、あらゆる角度、あらゆる面から、状況を把握し、判断する必要があるという事を如実に教えてくれる、一事例かと思えます。

そこで必要になるのが、「マクロを観る目、ミクロを視つめる目」です。

「マクロを観る目、ミクロを視つめる目」とは、即ち、全体を把握する能力、そして詳細を正確にとらえられる能力、これを同時に感じる事ができ、常に、そのように心掛けることです。

この事は、目覚しく進歩する科学の時代、そして一層複雑化する人間関係、このような現代に生きる我々にとっては、非常に重要な事では無いでしょうか。

人それぞれ、性格も違い、能力の差もあり、それは、先天的なもの、生活環境等による後天的なもの等、あらゆる事が交じり合い、重なり合い、絡み合っただけのことだと思います。

人間関係は、近いところでは、家族、隣人、仕事関係、そして友人関係、趣味の仲間等々あらゆるところで成り立っています。

我々は、一人で生きているのでは無いということです、そのような集団の中では、「マクロを観る目、ミクロを 視つめる目」の原則は生きるのではないのでしょうか。

一人一人が、色々な情報から、部分部分の掌握で、偏見に陥る事無く、詳細に分析し、より実体に近い全体像を把握し、判断をして、言動をとるならば、そこに素晴らしい人間関係が築かれ、楽しい生活があるのです。

勿論、人間関係においてのみならず、あらゆるところで、このように心がける事は、現代に生きる我々にとっては、非常に重要であり、又、不可欠の事でしょう。

日常、そのように心がけて生きる事は、更なる進歩と発展に連なり、時々刻々と変動する現代を、幸せに生きる源となり得るものと信じます。

第 45 号(平成 11 年 12 月発行)掲載